

## ○ 新学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

小学校は32年度から中学校は33年度から新学習指導要領の教育課程となる。  
(移行期間…小学校は今年度と来年度、中学校が今年度から3年間)

今回の学習指導要領改訂の背景には、急激な社会的変化として

- ① 情報化、グローバル化の加速的な進展
- ② 人口知能（AI）の飛躍的進化 など

そのような予測困難な時代にあっても、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に子どもたちに育むことが必要。

そのために

よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協議しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

「カリキュラム・マネジメント」の実現

## 教育内容の主な改善事項、その他の重要事項

- 言語能力の確実な育成
- 理数教育の充実
- 伝統や文化に対する教育の充実
- 道徳教育の充実（道徳の「特別の教科」化…数値などによる評価はなじまないため記述式で）
- 外国語の充実（小学校外国語活動…3、4年35時間 5、6年70時間）
- 初等中等教育の一環した学びの充実
- 主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実
- 情報活用能力（プログラミング教育を含む…プログラミング的思考の育成）
- 部活動
- 子どもたちの発達の支援